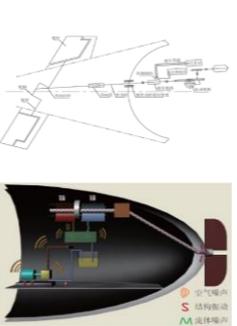
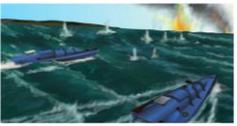
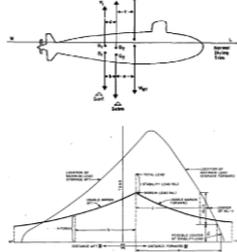


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -166	2022/10/25	Thales Working On Dipping Sonar Technology For UAVs	ThalesはUAV用のディッピングソナー技術に取り組み中	Naval Times 2022/10/25	 ThalesがUAVにディッピングソナーを取り付けてASWを行う技術の研究をしています。有人ヘリのような重量物が搭載できないUAVにとって軽量化のカギは小径ケーブルなのだそう。これが実用化すれば現在のヘリよりも柔軟かつ迅速に潜水艦を追尾可能でMPA、ヘリ、艦艇にもデータを送信できるそうです。搭乗員の安全や、さらには搭乗員の削減面でも期待が持てます。	佐々木司
2022 -167	2022/4/28	AFRL technology makes new weapon for sinking ships a reality	AFRL(空軍研究所)の技術で船舶を現実に沈める新兵器を製造	Air Force Research Laboratory Public Affairs 2022/4/28	 少し古い情報ですが、米空軍研究所が2000ポンド爆弾に精密誘導装置をつけて戦闘機から艦船直下に投下、潜水艦の長魚雷のようにバブルジェットで船体をへし折って撃沈する手法を開発中です。ほぼ水平に数十ノットで走る長魚雷なら回避するいとまがありそうですが、空中直上から降ってくる場合はどうなるのでしょうか、回避行動をしても追いかけてくるようです。	佐々木司
2022 -168	2022/10/18	Navy Tests Reloading Missiles on Destroyer in San Diego Bay, Open Ocean Tests Tougher Task	海軍がサンディエゴ湾内で駆逐艦のミサイル再装填をテスト、外洋でのテストはより困難な作業に	USNI Times 2022/10/18	 米海軍は洋上でのVLS再装填をテストしています。記事本文は7ページまで。	岩崎洋一
2022 -169	2022/10/27	'Fat Leonard' Extradition Gives Maduro Regime an Edge in Redefining Relations with U.S., Says Legal Expert	「ファット・レナード」の引き渡しはマドゥーロ政権に対米優位を与えると専門家は言う	USNI Times 2022/10/27	 ファット・レナードはまだベネズエラで拘束されています。引渡し交渉をすれば、米国がベネズエラのマドゥーロ政権を認めてしまうことになり、苦渋の選択を迫られそうです。	岩崎洋一
2022 -170	2022/10/11	Destroyer Lenah Sutcliffe Higbee Completes Navy Acceptance Trials	駆逐艦「レナ・サトクリフ・ヒグビー」が海軍の受領公試を完了	USNI Times 2022/10/11	 イージス駆逐艦アーレイ・バーク級で73隻目が海軍の受領公試を終えました。インガルスで建造される最後のフライトIIA Technology Insertion型です。次からはフライトIII型に移行します。	岩崎洋一
2022 -171	2022/10/30	Analysis: Ukraine Strikes With Kamikaze USVs - Russian Bases Are Not Safe Anymore	分析:ウクライナが神風USVで攻撃 -ロシアの基地はもはや安全ではない	Naval Times 2022/10/30	 Moskvaに替わるロシア黒海艦隊新旗艦Admiral Makarovが自爆USVの攻撃を受けた映像がSNSに出回っており、再び旗艦が攻撃を受けたことでロシア黒海艦隊の態勢に非難が上がっています。記事でも「学ばない海軍」として酷評しています。我が海自は他山の石としてしっかりと教訓を学び取りたいものです。対艦兵器としての無人機の重要性は益々増大しています。	佐々木司
2022 -172	2022/11/6	Loitering Munition Strikes Ukrainian Gunboat, A First In Naval Warfare	徘徊型兵器がウクライナのガンボートを攻撃。海上戦闘では初。	Naval News 2022/11/6	 先日ウクライナがUSVとUAVでロシア黒海艦隊を攻撃しましたが、今度はロシアが徘徊型兵器(自爆ドローンの一種)で初めてウクライナ艦艇を攻撃しました。長期間ある場所を「徘徊」飛行して、目標が近接すると突入するドローンです。ロシアウクライナ紛争は最新ドローンの実験場と化しています。これには世界の軍関係者が注目しています。	佐々木司
2022 -173	2022/11/9	Rep. Elaine Luria Loses House Seat to Navy Vet Jen Kiggans	エレイン・ルーリア下院議員が海軍退役軍人のジェン・キガンズに議席を奪われる	USNI News 2022/11/9	 米下院議員で元海軍水上戦士官のエレイン・ルーリア議員(民主党)が今回の選挙で、同じ海軍出身でヘリ・パイのジェン・キガンズ候補(共和党)に敗れたという話です。ルーリア議員は海軍の、特に建造基盤や海洋戦略に対して厳しい批判・叱咤激励を繰り返してきました。こんな人が日本に現れるのはいつの日でしょう。	岩崎洋一
2022 -174	2022/11/9	Small shipyards consolidate amid Navy program delays	小規模造船所は海軍の事業遅延の最中に合併する	Defense News 2022/11/9	 米国内の小規模造船所に合併、買収の動きが出ています。民間船舶の受注期待が少ないうえに、頼りにする海軍の新型艦艇計画が遅延していることに原因があるようです。今後米海軍が大幅に増勢する小型艦艇や無人艇をにらんだ動きとも取れますが、米海軍の新型艦艇事業は遅延しがちなので心配です。得意分野に特化しつつある日本の造船所はどうでしょうか。	佐々木司

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -175	2022/11/10	Four-year-old LCS Wichita suffers propulsion plant casualty	就役後4年のLCS Wichitalに推進プラントの事故発生	Navy Times 2022/11/10	 コンバイニングギア問題が尾を引く米海軍Freedom級LCSで、今度はWichita(LCS-13)に「クラスA」級の事故が発生したようです。米海軍はFreedom級の早期除籍を希望していますが、高価なLCSを艦齢10年未満で除籍させるのには議会も相当反発しています。いっそのこと同じ機関形式でも問題のない我がFFMのクロスコネクトギアを採用してはどうでしょうか。	佐々木司
2022 -176	2022/11/7	Navy's amphib Bataan receives first permanent metal 3D printer for parts	部品製造用の金属3Dプリンターを海軍揚陸艦バタタンに初恒久装備	Breaking Defense 2022/11/7	 強襲揚陸艦に金属3Dプリンターが恒久装備されたようです。従来から、米海軍では空母や潜水艦に仮装備し、効果の懸賞を行っていた模様である。艦船の維持修理にどの程度貢献できるか、今後の状況を観たいところであるが、艦内で部品を製造するためのプログラムが陸上から送られてくる時代に既にあるのかもしれない。将来予想される多くの小型ドローン等の修理用部品などは簡単に製造可能ではなかろうか。	清水隆
2022 -177	2022/11/3	U.S. Army Expanding Interoperability with Navy, Marines in the Pacific	陸軍は太平洋で海軍・海兵隊とのインターオペラビリティを拡大	USNI News 2022/11/3	 米陸軍も西太平洋の戦いにプレゼンスを示そうとしています。	岩崎洋一
2022 -178	2022/11/13	Interview With Ukrainian Ambassador To Turkiye About The Fundraising Campaign For USV Fleet	駐トルコのウクライナ大使にUSV艦隊の基金集めキャンペーンについてインタビュー	Naval News 2022/11/13	 ウクライナ政府が100隻のUSVによる艦隊を編成するため基金集めを始めました。まともな水上艦を有しないウクライナが無人艦隊でロシア黒海艦隊を撃滅する目的のようです。もしこれが実現すれば有人艦隊に対し無人艦隊が有効に機能する証明となり、今後世界の海軍における艦艇整備の方向性が劇的に変わっていくことになるでしょう。人材不足の海自は注目すべきです。	佐々木司
2022 -179	2022/10/24	In focus_ BAE Systems' adaptable strike frigate concept	焦点:BAEシステムズ社の高順応性攻撃型フリゲート艦コンセプト	Navy Lookout 2022/10/24	 Type 32に関するBAES社のコンセプト案の紹介がされています。英海軍の要求が固まっていない段階であるため、搭載武器のあり方を追求するのではなく、受け皿としてのプラットフォームの検討が主なようです。ただし、ここでは、如何なる軍艦でも共通の機能・装備を具備するとともに、ドイツのMEKOの概念同様、ユーザー海軍において、どのようなオプションが求められようとも対応できるプラットフォームを目指しているようです。結果、船体は余裕のある設計が必要となり、大型化し、船体価格も高騰する傾向も予想されますが、用途に応じて作り込む従来設計との定量的な比較評価が今後必要に感じます。また、環境や経済性を重視した推進システムの今後の動向も注視していきたいと思えます。	本山泰之
2022 -180	2022/10/1	Overview of submarine steering system noise	潜水艦操舵系統雑音の概要	中国舰船研究 2022/10/1	 翻訳の正確性について疑問がありますが、中国文献をトライしてみました。中国の潜水艦関係者の同分野の研究動向を垣間見ることができる論文です。広範に及ぶ雑音要因を個々に詳細な分析を行い、その対策を検討しています。ロシア潜水艦は当然ながら、米潜水艦の技術情報も収集しているなど、海外技術動向についても熱心な調査が行われていますし、各種の実験的研究が行われていることもわかります。また、ディーゼル発電機や補機類は知られるところですが、電動機と油圧ポンプユニットについても、ドイツの技術情報乃至は製品が搭載されている可能性を示唆する記述があります。いずれにしても、潜水艦操舵に関して、低雑音化の研究が広範かつ深く行われていることがわかります。	本山泰之
2022 -181	2022/11/17	Why Ukraine's Remarkable Attack On Sevastopol Will Go Down In History	ウクライナのセヴァストポリへの驚くべき攻撃はなぜ歴史に残るのか	Naval News 2022/11/17	 潜水艦の出現、日本海海戦、タラント空襲・・・今回のウクライナによるUSV攻撃はゲームチェンジの幕明けになるのでしょうか？ それとも軍港に防潜網ならぬ防艇柵を設置すれば解決する話でしょうか？	岩崎洋一

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2022 -182	2022/11/21	Two Japanese Destroyers Score in Ballistic Missile Defense Test off Hawaii	ハワイ沖のBMDテストに日本の駆逐艦2隻が成功	USNI News 2022/11/21	 「まや」「はぐろ」がハワイでBMD実射テストに成功したニュースです。文中に現在計画中の2万トン級をやめて「まや」級と同型艦にするかもしれないという、気になる箇所がありました。また、巻末の読者コメントで海上自衛隊の2万トン級BMD艦をネタにしています。	岩崎洋一
2022 -183	2022/11/17	Spanish-British shipyard team wins bid for UK naval logistics fleet	スペイン-英国 造船チームが英国補給艦調達競争で勝利	Deffense News 2022/11/17	 英海軍空母機動部隊を支援する物資補給艦(FSS)の建造会社がやっと決定された。本件は英国がEUに加盟していたころからの事業で、軍艦以外は国際競争調達とするEUルールに従って当初は国際公募されていた。しかし、国内建造能力も海軍力の一部との考え方から国内建造基盤維持のためには補給艦とはいえ国内建造とすべきという意見も多かった。EU離脱後、入札条件を変更し、入札には英国企業が含まれることや社会的価値(英国内への支出と雇用、環境対応等)も選定条件に加えられた。その結果、スペイン-英国の混成チームが選定された。低価格で海外発注する考え方からは脱皮したようだ。(関連記事: 2022-135)	清水隆
2022 -184	2022/11/16	Team Resolute selected as preferred bidder to build the Fleet Solid Support Ships	Fleet Solid Support Ships建造の優先入札者としてTeam Resoluteが選ばれました	Navy Lookout 2022/11/16	 英海軍のFSS(Fleet Solid Support Ships)の建造がTeam Resolute コンソーシアムに決まったという記事です。本記事では韓国で建造されたタイド級の経験が生かされているとの記述があります。しかし、その経験とは、恐らく製造設計を含めない範囲の設計を担当したBMTのもののみと思われます。実際の建造は、英国内での雇用創出を重視しつつも、多国間のハード面とソフト面を織り合わせた協業態勢を、如何に構築していくかに掛かっているようです。今後の具体的な進展が注目点かと思えます。	本山泰之
2022 -185	1960/11/17	Naval Architectural Aspects of Submarine Design	潜水艦設計の造船学的側面 ほか(「重量、浮量、静的安定性、重量マージン」関連抜粋)	THE SOCIETY OF NAVAL ARCHITECTS AND MARINE ENGINEERS 1960/11/17	 今回は現役のとある方のご依頼を受け、潜水艦設計に関する論文等から、第1報として、重量、浮量、静的安定性、重量マージンなどに関連した内容についてのみ、ご紹介します。出典は、古い文献ですが、今日でも潜水艦設計の基礎を成す文献かと思えます。これら技術的文献に所見を述べるには及びません。ですが、これらの文献の全文を参考にしつつ、いずれ潜水艦設計の基礎的な部分について、まとめたいと思います。なお、第2文献には、第1文献の参考文献にある技術資料の最新版を調査する予定です。続報をお待ちください。	本山泰之